

平成26年勝浦町マラソン議会（ひな会議）会議録第6号

1 招集年月日 平成26年3月18日

1 招集場所 勝浦町議会議場

1 開閉日時及び宣告

開議 3月18日 午後1時32分 議長 大西一司

散会 3月18日 午後3時17分 議長 大西一司

1 出席及び欠席議員

○出席議員（10名）

1番	美馬友子	2番	麻植秀樹
3番	河野道雄	4番	籾公一
5番	国清一治	6番	森本守
7番	山野忠男	8番	井出美智子
9番	大西一司	10番	川端雅夫

○欠席議員（0名）

1 地方自治法第121条第1項により説明のために出席した者の職及び氏名

町長	中田丑五郎	副町長	小林功
企画総務課長	伊丹眞悟	税務課長	前田泰子
福祉課長	大西博己	産業交流課長 農業委員会事務局長	野上武典
住民課長	岩佐誠明	建設課長	柳澤裕之
教育委員会事務局長 給食センター所長 会計管理者 出納室長	坪井泰博 豊岡和久	勝浦病院 事務局長	松本重幸

1 職務のため出席した者の職氏名

事務局長 前田晃司

1 議事日程

日程第1 開議宣告

日程第2 町政に対する一般質問

1 本日の会議に付した事件

日程第1から日程第2まで

1 会議の経過

別紙のとおり

~~~~~

午後1時32分 開議

○議長（大西一司君） 昨日に続いて会議をこれから開きます。

本日の議事日程は、お手元へ配付のとおりでございます。

~~~~~

○議長（大西一司君） 日程第2，町政に対する一般質問を行います。

通告表の順序に従って発言を許可します。

1番美馬友子君。はい，どうぞ。

○1番（美馬友子君） ただいま議長の許可をいただきましたので，1番議員美馬友子，ひな会議の一般質問をさせていただきます。

勝浦の将来はどうなるのだろうかという大きな問題ですが，きょうは午前中，小学校の卒業式でした。横瀬小学校は17名の卒業生でした。それぞれが決意を述べて，頼もしく思いました。生比奈小学校の21名を合わせると38人が中学校に入学するわけです。先週の中学校の卒業式では28名の方が巣立っていかれました。ことしの成人式は49名の方を祝ったわけですが，こんな少人数の方たちに我々はお世話になるわけです。将来どうなるのかといった不安は多少なりとも皆さんもお持ちでしょうが，この町の現状を聞いていきたいと思えます。

きょうは，民生委員さんの方にたくさん傍聴にお越しいただきありがとうございます。少子化や核家族化によって地域のつながりが薄れる中，高齢者や障害のある方，子育てや介護をしている方などに，地域の身近な相談相手として，また住民と行政や専門機関をつなぐパイプ役としてさまざまな活動をしてくださっている民生委員さん，児童委員さんにはいつもお世話になっております。多くの情報や知識はお持ちでしょうが，きょうは私たちの身近な問題として聞いていただけたらと思えます。

それでは初めに，住民課長にお聞きしますが，平日の昼間に町で火災が起きても，若い人たちは町外に勤務しており，なかなか消火活動ができないのではと昨日の質問でもありましたが，昼間はどれぐらいの人口がいるのでしょうか。また，昼間の生産年齢の割合とか男女の人数とかわかりますでしょうか。

○議長（大西一司君） 岩佐住民課長。

○住民課長（岩佐誠明君） 平成22年の国勢調査の数値で申し上げます。なお，町外の方を除いた数値で申し上げたいと思えます。

昼間の人口ですけれども、男性が2,055人、女性が2,455人の合計4,510人でございます。

昼間の生産年齢は男性が930人、女性が1,012人で、合計1,942人で、割合は43.1%となっております。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 昼間の人口は4,510人で、生産年齢とは生産活動に従事できる年齢で、満15歳以上から65歳未満を示していますが、昼間の15歳から65歳までの生産年齢人口は1,942人と言ってもらいましたが、勝浦の人口総数は今5,765人でございます。昼間は4,510人いますが、そのうち2,568人は高齢者と子供たちということになります。

それでは、40歳から74歳までの人口は何人でしょうか。

○議長（大西一司君） 岩佐住民課長。

○住民課長（岩佐誠明君） 40歳から74歳未満の人口につきましては、ことしの2月末現在の住民基本台帳の数字で申し上げます。40歳から74歳未満で合計2,699人でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） この40歳から74歳までの2,699人が特定健診を受けれるということです。受けなくてはならない人たちの人数ということです。日本人の死亡原因の約6割を占める生活習慣病の予防のために、40歳から74歳までの方を対象にメタボリックシンドロームに着目した健診が平成20年から始まりました。

税務課長にお聞きします。

40歳から74歳までの人口は2,699人と聞きました。そのうち、国保の特定健診の対象者はことしは1,039人と聞いておりましたが、今年度の特定健診受診者数と特定健診率はどの程度だったのでしょうか。

○議長（大西一司君） 前田税務課長。

○税務課長（前田泰子君） 平成25年度の受診結果はまだ出ておりませんので、巡回での受診率を申し上げます。

集団での健診であります巡回健診を10回実施しております。忙しい方もご自分のや

りくりで健診を受ける機会は10回ございます。平成25年4月1日現在の国保の特定健診対象者は1,039名、巡回での受診者は341名で、健診受診率は約33%でございます。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 勝浦の受診率はトップクラスと言われておりますが、まだまだ半数にも及ばない方が健診を受けてないということがわかりました。1,039人中の341人しか健診を受けていません。

それでは、健診を受けていない方が多い年齢層はわかりますか。

○議長（大西一司君） 前田税務課長。

○税務課長（前田泰子君） 平成23年度の受診結果をしてみると、受診の少ない年齢層は、男性は50歳から54歳、女性は40歳代でございます。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 健診を受けない、または受けられない原因は何なのでしょう。考えられることはありますか。

○議長（大西一司君） 前田税務課長。

○税務課長（前田泰子君） 美馬議員のように、ご自分の健康のためにという意識を持って前向きに考えていただき、特定健診を受けていただきたいと思います。健診を受けられていない原因として考えられることはと聞かれますと難しいのですが、3点ほど考えられます。

1つ目は、既に治療中のため病院にかかっている。2つ目は、まだ若くて自分は健康だと思っている。3つ目は、忙しくて健診に行く時間がない。このようなことが考えられるように思います。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 税務課長がおっしゃっていただいた2番、3番の方に本当に健診を受けていただきたいと思います。男性では50歳から54歳、女性では40歳代の方が健診を受けていないということは、家庭でも社会でも本当に重要な存在である方が受けていないということは、本当に自分の健康状態とか生活習慣を見直す機会を逃が

してしまうことになるので、ぜひ積極的に受診してほしいと思いますし、また受診をみんなで進めてもいきたいと思っています。

それでは、福祉課長に伺っていきます。

勝浦町の65歳以上の人口は2,137人ですが、元気な65歳以上の人口はどれくらいおいでなのか把握できていますか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） この元気なという定義が介護保険主管課のみに通用する考え方ではございますが、26年2月1日現在の65歳以上の人口2,137人から介護認定を受けている596人を引いて1,541人、この方が少なくとも介護保険を利用していないほどには元気であるというふうに認識しております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） それでは、そのうちの元気な75歳以上の人口は幾らでしょうか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 同様の算定でございますが、75歳以上は同月同日で1,250人から、介護認定を受けている535人を引きますと715人、この方が65歳以上で少なくとも介護認定を受けていないほどには元気であるという経過でございます。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 2,137人中1,541人の方がお元気ということで、元気な年寄りには地域の宝と言われております。勝浦町は、高齢社会でも山や畑の手入れがあるので病気する暇がない人が多いのかもしれませんが。ありがたいことです。

それでは、先ほど介護認定が596名とおっしゃっていただきましたが、要支援と介護の認定数を区分数でお願いします。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 直近の介護認定者数でございますが、平成26年1月末現在、要支援1が48名、要支援2が100名で、要支援合計は148名。要介護のほうになりますと、介護の1が32名、同2が70名、介護3が81名、同じ介護4が65名、同介護5

が62名で、要介護計で310名。総数で458名でございます。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 認定数の数がわかりましたが、高齢者の多い勝浦にとって認知症問題は重要な課題です。物忘れが目立ちますがそこそこ生活ができる時期のことを軽度認知障害といいます。MC I と言われますが、軽度認知障害、いわゆる認知症の予備群ですが、その人口数はわかりますか。

○議長（大西一司君） 大西課長。

○福祉課長（大西博己君） 調べられる範囲でございますが、認知症まで至らず、日常生活は基本的にできるが新しいことは覚えられない、維持できない、思い出せない等の5つの項目に当てはまる軽度の認知障害のことだと思えます。正常加齢と認知症の境界領域の概念でありますので、現行制度でどのケースがという特定できるものではございません。介護予防事業で平成24年度1カ年のトータル570人の参加者があり、その事業の利用登録者数81名がおおよそこのケースの該当人数であるというふうに考えられます。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） そこそこ生活ができるちゅう方が81名ということですね、570名中。

（福祉課長大西博己君「ちょっと違う」の声あり）

○議長（大西一司君） もう一度ちょっと、答弁きちんと。

大西課長、もう一度。

○福祉課長（大西博己君） 町内全部の方でなくて、あくまでも全部の方のうち介護予防事業、介護予防教室等に参加して、私どもが掌握できる範囲内のことでございます。81名が登録されてますので、この方の中で、先ほどおっしゃられましたMC I——軽度障害の数が可能性があるという認識で、この教室等に来られない方まではカウントできておりません。

以上です。

○議長（大西一司君） わかりました。

(1 番美馬友子君「はい」の声あり)

美馬議員。

○1 番（美馬友子君） 参加されているうちの81名が軽度認知障害があるということで、まだまだ参加されていなくて、軽度の物忘れがすごくひどいという方も住民の中にはたくさんおいでだと思うんですが、その方のクエスチョンの数を足して、その人数の半分が5年後にはアルツハイマーに移行すると言われていています。それなので、予防策が急がれると考えております。

それでは、認知症は今後ますますふえ続けると言われていますが、現時点で認知症の把握はできていますか、数。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） ことしの2月末現在でございますが、包括支援センターに相談するに至った件数が376件あり、そのうち認知症あるいは認知症疑いとして掌握しているものは154名という報告を受けております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1 番（美馬友子君） 先ほど認定数の方が458名と言われました。そしてまた、相談に来られる方が376名、そのうち154名の方が認知症ではないかということで、認知症対策にはどういったものが行われているのでしょうか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 包括支援センターでの1次予防と2次予防の充実を図り、その重症化を未然に改善します。各関係機関との連携強化によりまして、民生委員さん等も含めた見守り、施設及び支援センターでの通報等を充実させることも必要かと考えられます。また、昨年からスタートしました認知症キャラバンメイト養成事業も継続して、住民に認知症の正しい理解を広めることも重要かと思っております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1 番（美馬友子君） 予防策がないんですか。それは入ってないんですか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 予防策というのが、介護保険法にあります1次予防事業

と2次予防事業が介護予防策でございます。

以上です。

○議長（大西一司君） その内容ですか、内容……。もう一遍、答弁をお願いします。

福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 介護予防事業の1次予防事業というのは、各町村におきまして全ての第1号被保険者を対象とする事業として、地域において自主的な介護予防に関する活動が広く実施され、高齢者が積極的にこれらの活動に参加し、介護予防に関する知識の啓発、普及等地域における自主的な介護予防に資する活動の育成支援を実施するものでございまして、介護予防普及啓発事業、地域介護予防活動支援事業等が上げられます。

2次予防事業というのは、介護保険事業の対象となる事業としまして、通所または訪問によりまして、要介護状態となることの予防、また要介護状態の軽減、悪化の防止を目的とする介護予防事業でございます。内容としましては、通所型介護予防事業、訪問型介護予防事業、評価事業等がございます。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 認知症の方とか高齢者の方が活動参加されて、知識の啓発をしているということはわかりました。

先ほど、福祉課長の説明の中でもありましたが、地域で認知症を理解して支え合いましよと始まった認知症サポーター数はふえたのでしょうか。このオレンジリングなんです、このオレンジリングを持った方は勝浦町では何人おられますでしょうか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 26年3月1日現在でございますが、認知症サポーターの町内の数は233名でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 徐々にふえてきていることに安心を覚えますが、役場職員はキャラバンメイト養成講座を受けて、住民サービスに何人の方がつなげていますか。また、福祉課が職員に認知症の講義をされたことがありますか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） サポーター数は役場の職員で何人かというご質問でございますが、キャラバンメイトが4名、サポーターが3名、計7名がこのオレンジリングを所有しております。

今後とも、機会があれば一人でも多く認定できるようにしたいと思いますが、今現在福祉の所管課として職員にこの講習会を実施した実績はございません。今後、保健事業等を通じまして検討するということになると思います。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 検討しないでどうぞ実施していただきたいと思います。

やはり、地域に協力を求める以上は、行政も主体的に活動するということが必要とされます。認知症については、家族とか見守りする支援の方はすごく大変なんです。ですから、応援するサポーターはたくさん必要となります。でも、これはあくまでも有志による自発的なものであり、また認定制度もありません。キャラバンメイトとなったとしても、その後の活動については特にマニュアル化などはされておらず、個人の裁量に任されています。認知症患者が自宅で十分な介護を受けられる環境はまだまだ整っていないのが現状です。

2025年問題と言われ、最近新聞やニュースで取り上げられるようになってきました団塊の世代が65歳以上になるのが2015年、来年です。そして、後期高齢者、75歳となるのが2025年です。平成37年ですが、あと11年です。勝浦町での予測される問題はなんのでしょうか、福祉課長にお伺いします。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 課長答弁でよろしいんですね。

（1番美馬友子君「はい」の声あり）

○議長（大西一司君） 町長もこれしてもろうたら。

○福祉課長（大西博己君） 失礼しました。2025年問題でございますが、2013年末現在、総人口5,721人に対しまして高齢者人口が2,132名、高齢者比率は37.26%でございますが、この2025年度にはいわゆる団塊の世代の方が高齢者になり、その人口推計に対する高齢者比率が41.2%とピークを迎えます。したがって、施設入所待機者や在

宅支援の課題に取り組みねばなりません。その対策につきましては、施設の整備等では介護保険料の負担とのバランスが重要課題であり、次年度策定の第6期介護保険計画で検討されることとなります。同時に、施設入所を最小限にするための在宅支援の強化、給付費の削減のための介護予防、生きがい対策等も継続して課題に取り組みなければなりません。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 町長にも言うてもらう。

○1番（美馬友子君） 町長にも、この2025年問題をどう捉えているのか、よろしくをお願いします。

○議長（大西一司君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 民生委員さんの皆さん、こんにちは。きょうはどうもご苦労さまでございます。

ご指名いただきましたので、2025年問題というようなことでございます。

今、担当課長のほうから概略、概要を説明をさせていただきました。ちょうど2025年が高齢化率がピークに差しかかるというようなことで、今後そうしたベビーブームの時代に生まれた人が高齢者のピークを迎えるというようなことで、在宅支援の医療のこと、また介護の問題が当然出てくると思っております。この問題につきましては、現在の本町にある特別養護老人ホームにしましても待機者が90名というようなことで、緊急の人がたしか60名おられるというようなことで、本当に入所が必要な人が入所できないというような状況になっております。しかし、これを一気に解消するためにはそれなりの施設の増築というようなことがございまして、本町はグループホームの移床、増床をいたしておりますけども、まだ増床をすることによってそうした入所待機者の解消を図っていきたいというような要望もだんだんと聞かれてくる時期にも差しかかっております。議員もご指摘のように、そうした施設を充実することによって、逆にというんですか、介護保険料のアップにもつながるというようなことでございますので、そうした負担にどう対応していくか、行政としてどのように対応していくかというような問題も抱えておるところでもございます。

課長が申しあげましたように、在宅支援の強化とか、給付費の削減を図るための介護予防、そうしたことにも町といたしましても取り組んでいきたいというふうに考え

ております。

以上でございます。

○議長（大西一司君） はい、どうも。

ほんな、美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 超高齢社会となって、病気にかかるリスクも高まってきます。ひとり暮らしの世帯ももっとふえてきます。男性の介護者、経済的に困窮した息子さんが親の介護を1人でされる方も勝浦町では少なくないのではと思っています。多くの方が亡くなる時代がもうそこまで来ています。多死時代に突入すると、今は8割以上の方が病院のベッドで最期を迎えています。死に場所がなくなる可能性が高くなります。ベッド数が足りないということです。ですから、国の方針は家で最後まで過ごしましょう、在宅に力を入れるようになってきています。どこで亡くなるのかわからない人が全国で47万人いると言われていています。今までのように病院ではみとってくれないということです。勝浦病院があるから大丈夫といった問題ではなくなるということです。訪問診療をしてくれる医者がいません。これから急速にふえていくお世話が必要な人たちのお世話をする人も足りません。在宅医療は勝浦では不安です。定期的な訪問診療が実施されないと自宅で療養できません。勝浦にはかかりつけ医となる自宅まで往診してくれる医者や看護師がいません。入院もできずにどうなっていくのでしょうか。勝浦病院で対応してもらえるようになるのでしょうか。自宅で死亡確認もできない、昨日の質問でも救急体制の問題もありました。

病院事務局長にお聞きしたいと思います。

国の在宅強化の方針にどう対応していくのでしょうか。

○議長（大西一司君） 松本勝浦病院事務局長。

○勝浦病院事務局長（松本重幸君） 在宅医療での勝浦病院での現状からまずご報告したいと思います。

勝浦病院では、在宅医療といたしまして訪問診療、訪問介護、訪問リハビリを実施してございます。ご存じのとおり、常勤医が欠員して以来、先生方には病院での入院、外来診療、喜楽苑での回診など、通常の診療をこなしていただくだけでも大変な状況の中で、年間40から50回訪問診療を実施しているような状況でございます。今後、高齢者や単身の高齢者世帯の増加に伴いまして、在宅医療の需要というのはさらに増加

することが見込まれることも含め、医師の確保が最重要な課題であると考えております。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） ドクター確保は、行政がしっかりと解決策を見出していくのが役割となっていると思います。

春から院外処方になります。患者や家族に不安はないのでしょうか。どこの薬局でもよいということですが、やはり近いところに行くようになると思います。これからは、手押し車やつえで受診される方がもっとふえてくると思います。診察が終わっても、また移動して薬をもらわなくてはなりません。雨のときなどどうなるのでしょうか、不安でたまりません。タクシーで来ても、乗りおりを何度もしなくてはなりません。また、そこは少し傾斜があるので、帰るときは坂道となります。スピードが出るととまりません。怖いなあという思いです。私たちには何ともない程度の傾斜ですが、つえや手押し車の方は負担があると考えられます。今までのサービスを外へ出したわけですから、どうか今までのサービスより低下しないことを望みます。病院事務局長は、この不安材料を解決していただけるのでしょうか。

○議長（大西一司君） 松本病院事務局長。

○勝浦病院事務局長（松本重幸君） ご案内のように、この4月1日から院外処方のほうに移行させていただきます。そういうことで、2月から院内でお薬をお渡しするときに、作成しましたチラシを一緒にお渡しして、直接患者さんに院外処方の説明とご協力をお願いしております。例えば、4日のうちに受け取りに行けばよいことや、ご本人でなくてもご家族またはヘルパーさんなど代理の方に受け取ってもらうことも可能であることを十分ご説明しております。また、患者さんからの相談内容等は院内での推進会議に報告されまして、問題点等があれば検討しております。

ただ、特定の調剤薬局とだけ直接交渉はできませんので、推進会議に県の薬剤師会の小松島・勝浦地区の支部長さんにご出席いただきまして、対応事例の紹介やアドバイス等をいただきながら準備を進めている状況でございます。患者さんにとりましてはご負担をおかけすることになりますが、今のところ大きな問題点はないと認識しておりますが、今後問題等が起きましたら、いろいろと知恵と工夫を凝らしながら対応

していきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 薬剤師会から、大きな病院では会計の終わった後、窓口にどこの薬局に行かれますかと聞かれてファクスで送ってくれるというサービスがありますが、勝浦病院では人数的に少ないのでどうかなあと思うんですが、そんなサービスはあるんですか。

○議長（大西一司君） 松本病院事務局長。

○勝浦病院事務局長（松本重幸君） 病院からのファクスでの事前処方箋を調剤薬局のほうに電送するというサービスでございますけれども、先ほどご紹介させていただきました県の薬剤師会の小松島・勝浦地区の支部長のお話によりますと、当初うちの病院にも置いてくれると。それで、今議員さんが提示していただきました大きな病院でのファクスサービスでございますが、これは薬剤師会の職員が大きな病院に常駐して、その方がしておると。ただ、病院の職員自体がファクスを送るということは、特定の薬局に対して利益誘導になるということで、これは法に抵触するということで我々はできません。今のところ、薬剤師会のほうでは、病院の希望によりまして、勝浦病院のほうでは薬剤師会から職員を常駐するということが不可能ということをお願いしてございます。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） ファクスを送って素早く対応してくれるちゅうサービスがないということで、どうか負担になることがないようにご配慮お願いしたらと思います。

それでは、福祉課長に質問を戻します。

日本は他国に類を見ない急速な高齢化が進行しているのは皆さんもご存じだと思います。世界も注目しています。日本が一番に高齢社会となってしまいうんです。日本の中でも認知症の取り組みは、特に注目し合っております。勝浦町が率先して認知症状の早期発見ができ、重症化を防ぐ体制づくりをつくり上げてほしいと思います。

きょうの新聞にもありました。認知症が起こる前に発見して治療を始めることが重

要とドクターのほうから言われておりました。このことに対しては、民生委員さんの活動も非常に助かっております。でも、これからは協力隊をつくらないと、今の民生委員さんの数では対応できなくなります。一人でも多くの地域住民が地域全体で高齢者を見守ることの重要性を早く理解すること、そして地域力を高めていくこと、皆さんの力と力をつなぐ、支え合う体制づくりを進めるためには、地域住民が協力し合っていかななくてはなりません。行政だけではなく、地域住民が地域全体で取り組む必要があると考えております。

そこで、介護とか医療、住まい、生活支援、予防が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築することがますます重要となると言われておりますが、その地域包括ケアシステムとはどういうものなのでしょうか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 福祉課という一主管課だけで取り組める課題ではございませんが、その理念が、介護保険法第5条の3にある理念規定に基づいて構築を目指すものと記載されてございます。各地域でそれぞれの地域の実情に合った医療、介護、予防、住まい、生活支援が確保される体制のことでございます。実現に向けての対策は、保険者である市町村と徳島県の連携によりまして、地域の特性に応じてつくり上げていく必要があるというふうにされてあります。

福祉課のほうで当面できることは、まず地域ケア会議、あるいは次年度第6期以降の高齢者福祉介護保険計画策定に係るプロセスの中で徐々に協議されていく必要があるかと思えます。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 課長は福祉的に高度な説明だったので、わかりにくい方もいるのではないかと思います。重度な要介護状態になっても、住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるような体制づくりをつくるということですね。将来は、時々入院して自宅に戻るといった繰り返しになってくる人に、切れ目のないサービスの提供ができる連携がとれる仕組みをつくるということ、厚生労働省は言っております。

それでは、実現に向けての対策はいつからどんなふうが始まっていくのでしょうか

か。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 先ほどの答弁の繰り返しになるかもしれませんが、今現在どのような規模をどのような形で、また予算化規模等の具体的な説明はまだする段階ではございません。たちまち何が必要で何が実現可能な、そして今勝浦町にある医療介護資源をどう活用していくのかや、さまざまな要素を集約して構築していく協議の場を持つことがまず第一と考えられます。したがって、現行の包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員の方とか、それから老人会、福祉行政、あるいはケースによっては医療機関等で情報共有の場であるケア会議、今年に何度かございます。それと、もう一つが次年度第6期の介護計画策定のプロセスがございます。その中でまず、先ほど申し上げましたようなそういうネットワークの構築をどこから着手するかという、その検討というか研究からスタートするようになると思います。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） こういう情報は早く先取りして、本当に今現在こんなことで困っているというのは常に福祉課の中で、情報の中で出てきていると思うんで、わかってるところから取り組んでほしいなと思います。医療と介護の連携は、本当に行政の役割ではないかと考えています。この高齢社会を支えるには、介護担当者は専門職が必要ではないでしょうか。町長はどうお考えでしょうか。

○議長（大西一司君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 介護関係に限らず、いろんな今事務が非常に複雑化、多岐にわたって仕事が県から国から、いろんなところから入ってきておりますので、なかなか、専門職がおれば理解も早く、処理能力も高くなってくだらうと思うんですけども、今現実には1人の職員が2つも3つも仕事を持ちながら、それともう一つ言えるのは、大きな視野、県とは違って事務量が非常に少ないというんですか、その事柄に対する事務量が少ないというようなことで、そこに1人だけの職員を置くというのは機能的に難しい、無駄が多いというんですか、その人にいろんな仕事をしてもらわなんだらいかんというようなことの中から、必要性は十分わかりますけども、今のところは難しいなというようなことで、専門的に置いてるのは、保健師さんなんかはそう

した仕事を専門的に行っていただいております。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 介護担当者は、介護だけでなくほかの仕事もできているということですね。介護担当者は、勝浦町は地域包括支援センターに委託事業もしているので、その分ひょっとしたらほかの事務的な仕事ができるかもしれませんが、本当にいろんな多職種とマネジメントをせないかんのが介護の担当者なんです。医者とか看護師とか介護、ケアマネジャー、リハビリ、薬剤師、行政、歯科医師とか歯科衛生士さん、民生委員さん、それぞれの方たちのマネジメントが必要になってきます。支援の要る方への視点も重要となります。あの地域のあの家に住んでいるあの人を見る視点が必要になってくるのではないのでしょうか。今までは、新人さんが介護の担当となって、理解できるようになれば担当者がかわってしまうということを聞きました。これから超高齢社会となり、さらに支援が必要となってきます。要支援サービスの各自治体での取り組みとなってきますさまざまなニーズに的確に対応できる人の質の高い人材を確保することは急務と考えます。町長は、専門職を確保する必要がないというお考えなのでしょうか。

○議長（大西一司君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 決して必要でないで、必要性は認めて、先ほど来2025年の問題から始まって、これからの10年間の対応も非常に重要なことだという認識はお話ししたつもりでございますので、決して必要性はないと言いませんけども、本町にとっては、今直ちに専門職を置かなければいけないというようなところまでは至ってないというのが現状でございます。決して、必要性ないというようなことは申し上げませんので。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） これからたくさんの方が年を召されて、本当に予防策が必要です。それで、要支援サービスも各自治体におろされてきます。本当に、サービスの低下がないのか心配でございます。早く先取りしないと、ほかに求めているところがたくさんあります。いい人材を確保できなくなるということは、町長も認識はしてい

ると思いますが、できる限り早く専門職を置いてほしいなと私は思っています。

それでは次に、介護保険以外の保険外サービスの利用状況はどうなのかというところで、シルバー人材センターが行っている生活支援サービスの利用状況はどうなのでしょう。特に多いサービスは何なのでしょう。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 去年の11月からスタートしたばかりですので、大きな実績は今のところございません。独居世帯のための地域安心サポート事業でございまして、今現在まで15件程度の利用がございました。エアコンの掃除、庭の手入れ、ごみ出し、換気扇の掃除、布団干し、買い物等、身近な利用の要望が入っております。

今後は、利用者がふえるようにさらに充実を図っていきたいと考えております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） ひょっとしたら、ニーズがあっても使いにくい、またはサービスの方向が違うものはないのかなという不安もありますが、買い物支援を希望されていますが、買い物に行きたいのか、また行けないので買ってきてほしいのか、どちらのニーズが多くて買い物代行ができたのでしょうか。交通弱者問題は何度も質問されてきましたが、いまだに解決策は示されていません。行きたくても行けない人のほうが今は多いのではないのでしょうか。福祉課長はどう認識しているのでしょうか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） シルバー人材センターに要望があって実施したのは、行きたくても行けないというケースもございましたし、大量のものは持ち帰れないということで依頼したケースもございます。

先ほども申しあげましたように、まだスタートしたばかりの事業でございまして、周知は勝浦町内全戸にチラシの広報折り込み、さらに高齢者独居世帯及び高齢者のみで構成されている世帯及び障害者世帯と200世帯の該当世帯には、会員が一軒一軒チラシを持って内容等周知してありますので、たちまち周知不足というのはございませんが、要望等は人材センターのほうで用意したものの以外のものであるかないか、こういうのが使い便利がええか悪いかという調査等も含めまして、また次年度より取り組みたいと思っております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） いいサービスを続けてほしいなと思っています。

それでは次に、勝浦の将来人口はどうなっていくのかというと、先ほども2025年問題に触れましたが、平成37年には推計人口4,500人とされています。14歳以下の人口は何と8%弱程度となってくると思います。本当に子供たちは少なくなっていくということです。

そこで、今年度の出生率、今年度の出生数は何人だったのでしょうか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 平成25年7月に作成の徳島保健所管内の健康指標によりますと、平成27年の徳島県保健衛生統計年報の数字でございます。合計特殊出生率で1.37%と記録されております。ここで言う合計特殊出生率とは、簡単に説明しますと、勝浦町の女性が一生涯に産む子供の平均人数でございます。直近の数字でございますが、勝浦町という独自の数字はありませんでしたが、徳島県全体で1.43と表示されており、全国平均は上回っております。

最近直近の出生者数は、資料が見当たりませんので。

○議長（大西一司君） 一番大事なことや。

（福祉課長大西博己君「出生率のほうだけ」の声あり）

要らんこと答弁して。

（1番美馬友子君「ことし生まれた数はわかりますか」の声あり）

（福祉課長大西博己君「出生率だけにしておきました。申しわけございません」の声あり）

（1番美馬友子君「はい。また」の声あり）

わからんで、何人生まれたか、去年。

（福祉課長大西博己君「すぐわかります。質問の趣旨が出生率ということで率だけ調べてきて、出生者数までは調べてこなかったので申しわけありません」の声あり）

質問のペーパーと質問内容がちょっと違うたちゅうて、言いわけしよるけど。

(福祉課長大西博己君「小休お願いします」の声あり)

小休します。

午後 2 時 23 分 休憩

午後 2 時 25 分 再開

○議長（大西一司君） 再開します。

大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 24年度の実績で出生者25名、25年度は、26年3月、今現在で24名でございます。質問が合計出生率ということで、出生率だけを調べておりました。申しわけございません。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 今現在、ことし24人の子供たちが生まれたわけですが、人口減少を抑制するには人口をふやしていかななくてはなりません。出生率を上昇させるというか、そういう目標は持っていないのでしょうか、福祉課長にお伺いします。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 勝浦町の母子保健計画の中で、出生率向上の基本方針、目標等は記録してございます。ですが、出生率を何ポイントにするという具体的な数値は定めておりません。ただ、今年度から幅の広い将来的な子育て支援策として、不妊治療の助成、婚活支援等の取り組みを始めましたが、具体的にはこれらが将来の出生率向上につながっていけばと期待しております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 定住対策とか人口減少、少子化、どれも出生がふえなければ成り立ちません。

町長に伺ってもいいですか。出生率を上昇させる目標の指針はありますか。

○議長（大西一司君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 出生をふやす、現在人口減少の、本音を言えば人口増加と申し上げたいところですけども、今の状況では人口減少を少しでも食いとめていきたいというようなことで、若者定住住宅の建設をことしから始めておりますし、4月からもう入居できるというようなことで若い人に住んでいただいて、町内、町外を問わ

ず入っていただきまして、少しでも安心して子供を産み育てる環境づくりに町としても取り組んでいきたいというようなことをございます。

それと、それに付随して、以前からも特に子育て支援の充実というようなことで、いち早く子供の、乳幼児から始まって医療費の無料化を本年度から高校生まで拡充させていただいております。

不妊治療につきましても助成とか、いろんな皆さんにご要望をいただいておりますので、できるだけ必要な施策には取り組んでいきたいというようなことで、私も3期目というようなことをございますので、子育て支援の充実策はないのかというようなことでいろいろ検討もしてきたわけをございますけども、先ほど言いましたように、高校までの医療費の充実につきましては四国で初めてとか、そういう華々しいような事業は打ち立てておりませんが、今ちょうど子ども・子育て会議というのが始まっておりますので、この場で委員の皆様方からいろいろご意見をいただきまして、本当にどんなことを講ずることによって、勝浦の地で子供を安心して育てる環境づくりができるような施策は何なのかというようなこともご意見いただいて、そのご要望にお応えして取り組んでまいりたいということが今の考え方をございます。

以上をございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 子育てしやすい環境に取り組んでいくということでしたが、妊娠中に定期的に健診を受けることは、胎児の発育状態とか母体の健康状態を知る上でとても大切です。健やかな妊娠と出産のために妊婦健康診査を受けていると思いますが、喜びの妊娠から出産まで勝浦町は14回の妊婦健診が助成されているようです。安心して出産を迎えることができているのではないかと考えているのですが、その補助を妊婦さんは全て活用できているのでしょうか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 母子手帳発行時に交付されている妊婦一般健康診査受診票のことだと思います。個人差はございますが、今年度、平成26年2月末現在326件の受診実績から見ましても、おおむね100%の受診が実施できていると考えております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 妊婦健診はほぼ100%近く実施できているようなので安心しました。

それでは、今年度のゼロから5歳の就学前児の人口は何人なのでしょう。今後の推移も一緒にお願いしたいと思います。保育所に上がる前の人口数はわかりますか、ゼロから5歳。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 今年度の内訳でございますが、ゼロ歳児から5歳児194名で、内訳がゼロ歳児40名、1歳児32名、2歳児29名、3歳児32名、4歳児34名、5歳児27名でございます。

○議長（大西一司君） ええんか。さっきの25……。

（福祉課長大西博己君「今後の推移ちゅうんは」の声あり）

大西福祉課長，続いて。

○福祉課長（大西博己君） 人口の推移というように伺っておりましたので、22年度、23年度、24年度からの推移を調べました。そして、今年度の内訳を申し上げました。これが年度年度でずれていくというふうに考えていただければと思うんですが。お願いします。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） ゼロから5歳は194人ですよ。それで、現在の保育園の入所数は何人ですか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 25年度、今現在で137名、26年度申請が来ております入所見込み数でございますが、こすもす86、みかん48、両園で134名の入所申請が参っております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 勝浦町は小学校に上がる前のお子さんが233名おいでということですね。

町長にお聞きします。

子供たちを産み育てやすい環境をつくるには、一番手間もかかるのがこの時期ですが、費用も一番かかるのが保育料なんです。保育料を減額できないものでしょうか。

○議長（大西一司君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 保育料の減額というようなことで、種々検討したことはあります。それで、3番目のお子様については4歳、5歳から無料と。そのときに検討したのは、ゼロ歳児からすると●保育●に欠けない子供までが来るんでないかと。本来は、保護者の方が子供を育てていただいて、就学前の4歳、5歳になって、ならしというんですか、学校へ行くならしのために来ていただくのが一番、その人に保育料を無料にしていこうというようなことで、そのときいろいろ担当者と議論した経緯はございます。

議員にご指摘いただいておりますように、保護者の負担の軽減ということからいいますと、やはり保育料が一番やすいのかなと。じゃあそれをするのが一番効果的なんかなという思いもしておりますし、ほかにまだすべき子育ての支援策としてほかにすることがないのかという思いもして、いろいろ考えております。子育て支援の充実というようなことを私も政策の中の大きな一つに掲げておりますので、本当に保護者の方に喜んでいただけるような施策を講じたいというようなことで、先ほど少しお話ししましたが、子ども・子育て会議等でそれが本当にいいのかどうかというような議論をしていただきまして、施策を出していきたいというように考えておりますので、そういうようなことで、きょうはご理解いただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 高校もほぼ無料化となっております。本当に保育料の費用が高いのは何ででしょうかと、私もいつも子育てしながら考えておりました。保育料を無償化して、出生率が伸びている町もあります。安心して産み育てやすい環境は、保育料の減額と誰もが思っていると思います。子育て支援の町として大きな効果があらわれるのではないのでしょうか。町長もいろいろと検討したことがあるとおっしゃいました。さらに研究していただいて、いい結果が出せるようお願いしたいと思います。

それでは、子育て支援センター事業である子育てサロン「こあら組」と子育てサー

クル「はぐくみクラブ」は、何人程度の利用がありますか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 子育て交流支援センター、旧沼江保育所跡のほうでございまして、14年度実績で3,958名の利用があり、うち若いお母さん方のための子育てサークル「はぐくみクラブ」のほうの参加者は1,347名でございまして。みかん保育園で実施している地域子育て支援拠点事業、子育てサロン「こあら組」のほうは、同平成24年度実績では200人の親子が利用しているほか、園庭開放は月曜日から金曜日まで毎日行っております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 保育園に行っていない方の何組ぐらいが利用しよんかということが、この数では私はちょっと理解しがたかったんで、質問の仕方がまずかったなと思いますが、それでは保育園やこの2つの子育て支援にも参加されていない未就園児、在宅で見ている子供たちはどれぐらいおられますか。また、その対応とか支援はどうされているのでしょうか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 先ほどの子育てサロンや支援センターにも行っておらず、さらに保育園に行っていないお子さんで、乳幼児全戸訪問事業というのがございまして。これは、現在24年度実績で25件ございまして。また、母子保健事業等によりまして、1歳児、1歳児半、2歳児、3歳児健診等も実施しておりますので、子供ないしはその保護者の方の異変に気づく接触機会等は、可能な限り行き届いている状態だと思っております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 在宅の多くは乳児健診などで支援ができているということと、保健師さんの訪問で保護者の方も安心して子育てができているということで、きょうもつらいニュース、虐待というニュースがありましたが、勝浦ではそういう問題がないということで安心しております。

それから、先ほど町長もおっしゃいましたが、昨年からはまった子ども・子育て会

議の質問なんですが、待機児童解消が大きな目的ではありますが、勝浦ではそういった問題はありませんが、勝浦での子ども・子育て会議の役割は何なのか。また、委員さんたちの意見が重要になってくるわけですが、活発に意見交換はできているのでしょうか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 昨年発足したばかりの子ども・子育て会議の役割のご質問だと思います。

当面は、次年度策定の子ども・子育て支援事業計画を策定するための会議となりますが、現在と将来の子育て支援施策を幅広く検討するという役割もございます。昨年11月29日に第1回の会議を開催して、今回は今年3月24日になりますので、今後意見交換等は徐々に行われるものと思っております。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） たしかニーズ調査をされると言いましたが、結果はいつごろわかりますか。それとか、もう既にニーズ調査は行っているんですか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 第1回目の子ども・子育て会議で審査しました調査表を昨年の12月11日に発送しまして、年内の回収率は53.3%でございました。専門的な集計分析はほぼ完成しており、3月10日に県のアヒアリングを済ませ、この3月24日の子ども・子育て会議等で調査結果の全容を説明する作業を今現在進めている段階でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 私は、ニーズ調査の中に一時預かりの要望はないかということが知りたいわけですが、ファミリー・サポート・センター事業というのがありますが、地域で子育ての支援をするために育児の援助を受けたい人と援助を行いたい人が会員登録をして、地域でお互いに援助活動を行うという会員組織ですが、わかりやすく言うと、保育園とか学童保育の送迎とか、帰宅後における子供の預かりなどを行うことと思うんですが、ファミリー・サポート・センター事業の現状と勝浦の利用者数と課題は何かありますか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 現在、登録されている提供会員——子供を預かる側のほうでございますが17名、依頼会員——子供を預ける側のほうが15名、両方が可能な会員が17名でございます。今年度は26年、ことし1月末現在で82件の利用がありました。登録会員をふやすことが今後の課題でございます。参考までですが、昨年度までほとんど利用実績がなかった状況でございましたところ、同センターが学童クラブを訪問して説明したり、1歳6カ月健診等でチラシの配付を実施した結果、利用者が急増しました。次年度は、同センター事業であります周知啓発イベントの一つを勝浦町内でも実施して、さらに利用者数をふやすようにしたいと思います。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 勝浦では82件の利用があったということですね。素晴らしい効果が出ているのではないかと思います。

それでは、広域の病児・病後児保育の利用者数は、昨日の山野議員の質問でゼロ人だったと聞きました。勝浦町は、小松島市と徳島市、石井町、佐那河内村において、おおむね10歳未満のお子さんが、病气中や病気の回復期にあつて、かつ保護者が就労しているなどの理由によって家庭で保育ができないときに、お子さんを一時的に預かる病児・病後児保育を実施されています。実施施設は7カ所で、近いところでいうと小松島、徳島市内になるので、やっぱり不便なのではないでしょうか。子供が急に熱が出て仕事は急に休めません。前ぶれもなくやってくる子供の病气は、核家族とか共稼ぎの親にとっては深刻な問題です。最大のピンチをサポートしてくれる制度が病児・病後児保育なのに、なぜ利用できていないのでしょうか。申請が困難なんではないでしょうか。

また、利用する料金とか、勝浦町の負担額は幾らかかっているのでしょうか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 利用料金は1人1日当たり1,800円でございます。今のところ、現場のほうでこの金額が高いとか安いとかという意見は寄せられておりません。25年度11月末現在で利用実績がゼロであったのは、たまたま幸いにも、子供が病气で、なおかつその保護者の方が仕事に行つて預ける必要がなかったとポジティ

ブに捉えておりますが、利用実績が少ない原因等、具体的に今後とも調査するつもりでございます。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 勝浦町の負担額について。

○議長（大西一司君） ごめん。続いて答弁願います。はい、どうぞ。

○福祉課長（大西博己君） 24年度が65万8,000円ぐらいだったと思います。ところが、26年度予算計上の段階で6カ町村、加入がふえまして負担割がふえましたので、勝浦町の負担割はぐっと安くなりました。26万円程度の負担額で26年度は運営できると思います。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） きっと、お父さんやお母さんは無理をして子供を看たんではないかと思えます。いい事業でも活用がなければ効果は出ません。しっかり周知、広報をしてほしいな、いい事業なんでそう思えます。働いている親にとって、子供の安全な居場所があるということはとても助かっていると思われま。

学童保育の利用者は何名で、何割が利用されていますか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 現在、生比奈ちゃいるどクラブが24名、横瀬たけのこクラブが32名、計56名の児童が利用しております。両小学校の児童数が233名ですので、対象児童の24%が利用しているという割合でございます。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 高校卒業までの医療費無料化となつてからの医療費の状況とか推移はどうなっていますか。

○議長（大西一司君） 大西福祉課長。

○福祉課長（大西博己君） 25年9月診療分からのスタートになります。9月診療分で30件、10月で43件、11月で40件、12月で56件、26年1月診療分では63件で、計232件、医療費合計が37万7,163円で、おおむね中学生よりちょっと少ない医療費で推

移しております。

○議長（大西一司君） いや、ほんなんでええの。

美馬友子君。

○1番（美馬友子君） いろんな角度から勝浦の将来はどうなっていくのかということを知ってききましたが、福祉的にこのいろんな数値から考えると、この勝浦町において特徴的な地域性はあるのでしょうか。また、重要課題は福祉課的には何とお考えなのでしょうか。

町長に聞いたほうがいいですか。町長、よろしくお願いします。

○議長（大西一司君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 地域性というようなことでございます。本町には県下では唯一と、ほかにもう一つあるらしいけど、それほど、那賀にも愛育班という組織があるようなんでございますけども、勝浦ほど充実はしていないのでないかというようなことで、県下で唯一と言える愛育班活動というのは非常に素晴らしい、歴史もございますし。その中で、住民の健康づくりのための健康教室や健康診断等の周知啓発を主な活動として、参加者が多く、各種検診の受診率の向上にもご尽力をいただいております。そして、がん検診や特定健診等県下でもトップクラスを維持できております。こんなことは、民生委員さん初め愛育班の皆様方のご活躍のたまものだというふうに敬意も表しますし、感謝もいたしているところでもございます。近年特に、悩みはやっぱり班員さんの減少が著しくて、課題となっておりますが、ちょうど次年度、26年度に愛育班の四国大会というのが開催されることとなっております。本町の愛育班の活動報告がメインになるんじゃないかなろうかというように思っております。そうした中で、組織の、ちょうどこのことを契機にいたしまして、今後とも素晴らしい愛育班の班員の拡大、またさらなる効果を期待をしているところでもございます。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 本当に愛育班という素晴らしい活動ができていますので、私も活動人口が減ってくるのを引きとめるのに苦労しておりますが、健康づくり、予防策が基本なので、会員数をふやす支援をよろしくお願いいたしますと思います。

それでは次に、移住定住の支援策について伺っていきます。

○議長（大西一司君） 美馬議員，ちょっと議事の都合により小休させてください。
ちょっと。

言いましたように，議事の都合により小休をします。

午後2時50分 休憩

午後3時02分 再開

○議長（大西一司君） それでは，再開します。

1番美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 移住定住の支援策について伺っていきたいと思います。

平成17年度に町内全域にケーブルテレビが整備されて，町からの補助もあってほぼ全世帯で高速インターネットが使用できるようになりましたが，その後加入金が高く，加入できていない世帯もあるのではないのでしょうか。また，定住促進が今町の重要施策でもあります。

企画総務課長にお聞きします。CATV設置の補助はできないものなのでしょうか。

○議長（大西一司君） 伊丹企画総務課長。

○企画総務課長（伊丹眞悟君） 光ケーブルによります情報通信網はおっしゃるとおり17年度に整備いたしました。そのときに，加入者の促進と加入者の負担軽減を図るために補助制度を設けました。その際に，加入の条件といたしまして，加入の条件というよりも制度の条件といたしまして，そのときに設置をしないと後で入っても補助はしませんということで取り決めをしております。ですので，今の契約の継続中については，そのときの申し合わせなり取り決めに尊重したいというふうに考えています。平成28年5月に，10年間の，IRU契約でございますけども，これが切れて更新になります。そのときに，今後の機器の更新，古くなっておりますのでどういう機器に入れかえをするかとか，その運用，それから今インターネット，それからデジタルテレビ，IP電話，3点で契約しておりますけども，その契約の内容をどう見直すのか，それから今議員さんご指摘の新規加入者に対する補助制度をどうするか，ここらあたりを十分検討して，今後の契約の中身を見詰め直して見直していきたいというふうに考えてます。

以上です。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 契約を検討していくということですが、家賃補助があるので勝浦に住んでみようかと引っ越しされてきてくれる方、また家が手狭で出ていった方が戻ってきている方、それぞれありがたいですが、今現在勝浦に住んでいて、子供も大きくなって実家が狭くなってきたので、空き家を借りて改修したり、また新築を建てたりしておりますが、ケーブルテレビの加入金が高くて入れないという話を聞いたので、こういう取り組みができないかという質問もしてるんですが、町から出ていけない、勝浦に住み続けてくれる若い世帯の補助にこそ定住促進策をしてほしいと考えます。大事な必要な人は誰ですかというところですね。今住んでいる若い人たち、町の住民が一番大事な方だと思いますので、こういう定住促進策を考えてほしいと思いますが、町長はどういうお考えなのでしょうか。

○議長（大西一司君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 課長がお答えしましたケーブルのことでよろしいんですね。

この制度につきましては、議員ご指摘のとおり平成17年からという、先ほど課長の説明のとおりでございまして、平成28年といいますとあと2年ほどあります。そんな中での契約というようなことでございますので、不公平感が出ないようにというようなことで取り決めをしておりますので、取り決めちゅうのは非常に重いものでもございます。特異な事例をつくるのが適当なんかどうかというのは検討もしないといけないんですけども、28年に更新するというようなことで、担当課としましてはそれを尊重して、契約はやはり契約として守っていきたいという方針でございます。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） それでは、以前にも質問したんですが、勝浦町に引っ越してこられた方が役場での手続がとても複雑で大変だと思われるので、事務的な支援一元化の方向を考えてみたいと言われましたが、その後はどうなっているのでしょうか、総務課長に伺います。

○議長（大西一司君） 伊丹企画総務課長。

○企画総務課長（伊丹眞悟君） 事務手続の一元化ということでございます。

定住とか移住ももちろんそうなんですけども、どの事業についてでも同じでございますけれども、来庁者の要求、これがかなり多岐にわたる事案がございます。1人の職員が全ての業務に精通しておるとは限りませんので、なかなか難しい点がございます。そういう意味からして、所管課を分けて事務に当たっているという状況でございます。この移住定住についてはこれからの課題でもありますので、できる限り積極的に丁寧に取り組む必要があると思います。いろいろ手続上の問題がございますので、来庁者、来られた方がメインのところの所管課でご相談されたときに、その職員がきめ細かく丁寧に役場の事務についてご説明をさせていただくと、できる限り来庁者の目線に立ってご相談に乗っていくという姿勢が大事であろうと思っておりますので、そういうことで取り組んでまいりたいというふうには考えております。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） 神山でも美波町でもしっかりとサポートしてくれる人材とか組織ができ上がっています。勝浦町もスムーズに対応支援ができるようによろしくお願ひしたいと思います。

次の人口減少対策、ことしの目玉ということなんですが、時間も差し迫ってきておりますので、若者の定住という予算をつけているのは皆様ご存じだと思います。この春から家賃補助が始められて、沼江の住宅に12戸の若者世帯が住んでもらえるということをしきりに聞いて、家賃補助の効果はあるのかと感じました。長期的に住んでいただけるとありがたいと思っています。

それでは、町長にお伺いします。

若者定住対策は重要施策ではありますが、この家賃補助は若者が望んでいるから始めたのですか。家賃補助のことだけではなく、どうしたらこの町に若者が長く住めるのか。また、こんな施策に期待しているなど、若者の意見や声を聞くという機会をつくってくれたのでしょうか。

○議長（大西一司君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 家賃補助につきましては、やはり若い人の負担を少しでも軽減、子育てと同じでございますして、軽減負担をして、やっぱり勝浦町の自然環境もいいし、子育ても充実していると、そんなところで家賃補助もしていただいて、そんなところに住んでみたい魅力あるまちづくりというようなことで、家賃補助というよう

なことも考えたわけでございます。その点につきましては、少し余談かも知れませんが、3年にしようか5年にしようかとかいろいろな意見の中で、3年間を家賃補助していこうというようなことでございます。

議員の質問の中で、以前も若者の意見を聞く機会をとというようなことで、私も大いに賛成もしたところでもございます。大きく地区に行ってお話しする機会も一、二件はございましたけども、小さなはぐくみクラブとかそんな子育てのところにも行っておりますし、また坂本なんかの老人クラブのほうにも行って、いろんな町政の報告をしたり、そんな意見を聞く場もつくりながら、そしてまた本町にもいろんな会議がたくさんございます。そんな会議にもできるだけ最後までおって、委員の皆様方のご意見を聞く中で、今後の施策に反映をしていきたいというようなことも考えております。

議員ご指摘のように、特に若い人の団体やPTA、そしてはぐくみクラブなどの子育て支援の中のそうした人々の活動を見ながら、意見も聞き、要望も聞きながら、できるだけ若い人が定着できるようにまちづくりに努めてまいりたいというように考えておりますので、今後ともご指導を賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） この町の救世主になり得る若い人たちがこの勝浦に戻ってこれる手だてを充実してほしいし、また顔を見て話し合ってほしいと思います。顔の見える機会をぜひ何度もつくってほしいと思います。

それでは、最後の質問になりますが、県道徳島上那賀線の今後ということで、横瀬橋周辺工事で未改良区間である棚野側ですが、狭隘箇所を町はどう考えているのでしょうか。方針はどのような方向に向かっているのでしょうか。町長にお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（大西一司君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 県道上那賀線の狭隘箇所のことでございますけど、特に棚野地区とは申し上げてなかったと思うんですけども、今県道上那賀線の中で勝浦町内、今中角工区を現在工事をやっておりますので、特に県にもお願いをしているのは、棚野地区の狭隘などところの改良といいますか、拡幅工事はお願いもしてありますし、県も重要な要望箇所としての位置づけもさせていただいておるといように認識

もいたしております。このところにつきましては、私から詳しく説明するよりも、横瀬橋のところから徳島銀行あたりまでの約250キロの範囲内での改良というようなことで、事業執行も取り組んだ経緯が過去平成7年ごろからずっと続いておりますけども、最近特に余り、ほかのところの改良工事が多くなったものでございますので、特に柵野工区まで回ってないというのが現状でございます。

以前も、議員初め柵野地区の皆様方にお集まりをいただきまして、やはり私も過去の経緯なり歴史を知っておきたいというようなことでお話しさせてもらった経緯もございます。そんなことで、決して忘れてるわけでもございませんけど、やっぱり地元の人々の熱意もいただきまして、ともども県のほうにもお願いに行く機会も持ちたいなと思っておりますので、中角地区がもう何年か、1年か2年のうち……。約2年という、絶対に約束はできませんけど、予算の関係で2年ほどでできるんでないかというようなことで、あわせまして柵野地区も狭隘部分、通学上も非常に危険なところでもございますので、できるだけ改良に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） それでは、副町長に、この道について県はどのような考えがあるのかお聞きしたいと思います。

○議長（大西一司君） 小林副町長。

○副町長（小林 功君） ただいま町長のほうからちょっとお話がございましたが、この箇所につきましては主要地方道の徳島上那賀線の柵野地区の狭隘部でございますが、勝浦町から県に対して県道の改良要望を行っておる箇所の一つでもございまして、昨年にはほかのところも含めまして県の担当部局の局長以下、担当者にもごらんいただきました。交通量も多くて車の往来も危険で、かつ通学路でもあるということから、県としても改良の必要性については認識していただいているというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（大西一司君） 美馬友子君。

○1番（美馬友子君） ある程度の方向性はある、要望もしているということですよ

ね。

地元はあいてる箇所もありますが、皆さんが毎日生活している場所ですのでそれぞれの思いがあります。いろんな問題もあろうかと思いますが、町の活性化のためにも安全を守るためにも必要不可欠な道でありますので、地元の方たちの意見を十分に聞いていきたいと思っています。

時間延長のご配慮ありがとうございました。

以上をもってひな会議での一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（大西一司君） 以上で1番議員美馬友子君の一般質問は終了いたしました。

以上で本日の日程は終了いたしました。

それでは改めまして、以上で本日の会議はこれで終了させていただきます。

どうもお疲れでございました。

午後3時17分 散会